

を發し、十七日自ら戦を挑んだか、勝家は之に應ぜずして持久の策を講じた。秀吉乃ち餘暇を利用して、四月十七日美濃に入つて信孝を攻撃した。盛政之を聞き、秀吉の不在に乗じて敵壘を屠らんと欲し、勝家の營に至つてその同意を求めた。勝家之を諍し、西方の敵壘に對して利家父子を茂山に陣せしめ、賤嶽に對して原政茂等を備へ、且つ盛政を警めて、攻撃終らば直に本道より歸るべきことを以てした。是に於いて盛政は、二十日味爽府中の不破直光・松任の徳山則秀を先鋒とし、中川清秀の大岩岩を隔れたのみならず、隣接岩崎山の高山長房をも走らせた。盛政勝を得て意氣忽ち驕り、前令に背きて歸らず、尾野路山に野營して明日更に盛名を擧げんことを期した。是の日秀吉大垣に在つて柴田軍の前進を聞き、長驅近江に向かひ、廿一日の黎明前木本を發して賤嶽の南に陣し、柴田勝政の將に陣を撤せんとするを見て、直に亂射を加へしめた。盛政は勝政の危きを見、拜郷家嘉を遣はして救はしめたが、家嘉も勝政も俱に戦死した。盛政その軍の敗れたるを見、逃れて敦賀附近に來り、土民の爲に捕へられて秀吉の軍に送致せられ、後六條河原に刑せられた。是より先利家は茂山に在つて敵を牽制するの任務に當つたが、盛政の軍の潰へたるを見て陣を撤し、鹽津谷より疋田・今庄を経て、利長の領邑府中に入つた。長家家譜に據れば、利家背進の際長連龍は之に殿したが、秀吉軍の追撃に會して、その家士を失ふこと三十四騎。利家の乘馬も亦傷ついたので、連龍の臣阿岸主水の僕藍浦新助は敵の馬を得て之を進め、因つて府中に歸ることを得たとして

居る。既にして主將勝家も大勢の挽回すべからざるを視て背進し、府中を過ぎて利家を訪ひ、利家が秀吉と舊交あるを以て、宜しく相和すべきことを勸めて去つた。秀吉は北進して廿一日夜今庄に泊し、翌日自ら利家の館に臨みて親睦し、廿三日利家父子を先驅として北庄に向かうたが、廿四日勝家は火を城に放つて自決した。秀吉乃ち船橋川を渡つて次し、廿五日加賀に入り、廿八日自ら盛政の尾山城に入り、又戦後の處置を議し、利家に石川・加賀二郡を興へて先の能登に加へ、尾山城に治せしめ、利長に徳山則秀の舊領石川郡四萬石を興へて松任に居らしめ、前の越前府中領を除き、江沼・能美二郡は若狹遠敷郡及び越前一國と共に丹羽長秀を封じて北庄に居らしめ、溝口秀勝を拜郷家嘉の舊領大聖寺に置き、村上頼勝は依然小松に在つて、二人共に長秀の輿力となり、徳山則秀と不破直光とは利家に臣事することになつた。而して秀吉は五月朔北・庄に還り、七日安土に入つた。

り。云々。又柳田村ぬづき谷といふ所に、女瀧・男瀧の兩瀧あり。此瀧の岩の邊に、諸菩薩の來迎の姿を彫りてあり。金山といふに、近き頃まで此村に十郎兵衛とて大百姓あり。此所持ありし千疋の一枚の堀田あり。』とあり、十郎兵衛は橘氏である。

ヤナギダガハ 柳田川 ヤナイダ ↓マチノガハ 町野川。

ヤナギダカンベエ 柳田勤兵衛 前田光高の小々將。勤兵衛は江戸に在つて、その同僚寺西藏人と板津兵助と申分を生じ、藏人の仕方散々なる旨虚言を構へたにより、藏人の爲に詰責せられて口論を醸した。その事老侯利常の聞く所となり、勤兵衛は切腹を命ぜられ、藏人は暇を請ひ、又藏人と交つた利常の小々將青木主膳・大窪織部・吉田七兵衛・茨木小隼人は國に還された後扶持を放たれた。但し勤兵衛の先祖は舊功の者であつたから、利常の御膳役四郎三郎(失氏)をして柳田氏を立てしめられた。

社であつた。式内等舊社記に、『楊田神社。邑知郷楊田村鎮座。舊社也。』大永六年十月一宮社務職年貢米錢納帳に、『一宮社務職毎年役帳之事、四石四斗三升五合楊田宮司』など、見えるものは是である。

ヤナギダジンジャ 柳田神社 珠洲郡南方に鎮座する。式内等舊社記に、『柳田神社。直郷南方村鎮座。稱上戸柳田明神。舊社也。』とある。

ヤナギダニガハ 柳谷川 能美郡白山御前岳・別山間の溪谷で、その源に不動瀧があり岩屋俣谷川・湯谷川を併せ、牛首川となる。地圖に柳谷の支流に柳谷とすは赤谷の誤で、その北の無名なるものが柳谷の源である。

ヤナギダニコウセン 柳谷鑛泉 能美郡白峰小字柳谷地内で、柳谷川に湯谷川が合流する地點から僅か上流の左岸に在る。大正三年の發見に係り、地方人は白山新温泉とも新五の温泉とも稱する。

ヤナギダニコウセン 柳谷鑛泉 白山の中腹柳谷川の不動瀧から別當谷の合流地點に至る右岸斜面に數所の炭酸石灰泉を見るが、その中三ヶ所は相接して存し、岩壁に著しく石灰華を固着せしめ、時に鐘乳石のやうになつて垂下し、又時に落葉等に固着被覆したりしてゐる。泉の最大なるものは涌出口から柳谷川の河床まで三〇米を落下する。この石灰泉は飲めば必ず腹痛に下痢を伴ふ。

ヤナギノミヤジンジャ 柳宮神社 能美郡串に鎮座する。式内等舊社記に、『柳宮神社。串村鎮座。今稱八幡宮。舊社也。』とある。

ヤナギバシ 柳橋 河北郡井上庄に屬する

ヤナギダ 柳田 ヤナイ 鳳至郡中町野郷に屬する部落。同郡東なる八幡寺藏應永六年書寫の大般若經奥書に、鳳氣至郡上町野柳田村とあるから、當時は上町野郷に屬してゐたのである。能登名跡志に、『柳田村、此邊の大村にて五ヶ村に別れてあり。安養寺とて密宗あ

ヤナギダシロサブロウ 柳田四郎三郎 父勤兵衛の後を繼ぎ、二百石を領し、前田利常の小將となり御役を勤めた。萬治元年利常の薨じた時、四郎三郎はその遺骨を高野山に歛めることを命ぜられたが、如何なる所存か之を拒んだので、遂に切腹を仰付けられた。

ヤナギダジンジャ 楊田神社 ヤナイダ 羽咋郡柳田に鎮座する。もと一宮氣多神社の末